

『エントリー制による体育祭の団決め』の実践

～関わりの深い縦割り集団づくりを目指して～

瑞穂市立穂積中学校 教諭 長屋 雅昭

概要

本校では、平成25年度より、団編成を形式的な縦割り集団で創るのではなく、4月からの各学級の取り組みと事実・実績をもとに相互に選び合うエントリー制度で決めている。4月の学級開きで担任の願いを語り、生徒たちの思いと組み合わせることができる学級目標…。学級目標を端的に具現する場となるこだわりの活動…。その学級づくりの願いと学級目標宣言集会までに積み上げた事実・実績をもとに一緒に活動を積み上げていきたい学級を選択していく…。

当然、複数の学級から一緒にやりたいという希望が出される学級もあれば、どの学級からも選ばれない学級や、同時に同じ学級を選択して一方は断られたりする学級があるという厳しい現実がある。これは形「他者から選択される」という進路指導にもつながる考え方のフィルターを通して、学級成員の一人一人が学級に対する所属感を確固たるものにすることがねらいである。そして、ここで決まった団が、体育祭だけでなく、学校をよりよくしていく主体的な動きができる縦割り集団になるような活動を積み重ねている。この資料は、エントリー制による体育祭の団決めとその後の活動の一部をまとめたものである。

1. エントリー制について

穂積中学校では、縦割りで体育祭の団を編成している。以前は、生徒会が主催するくじ引きで決定したり、各学年の1組同士、2組同士などで決定したりしていた。これらの方法においても、それぞれの団は団結して、精一杯活動していたが、3年生の自主性や積極性を発揮する期間や他学年との交流期間が短い状況であった。また、体育祭後にも、その縦割り集団で交流して、よさを学んだり、互いに高まろうとしたりする関係を創ることができなかった。

そこで、平成25年度から1年生と一緒に活動したい2年生を選び、1・2年生が3年生を選ぶ「エントリー制」という方法で団編成を行うようになった。他学年に「あの学級と一緒にになりたい」と指名してもらうためには、リーダーの声かけやそれに応えていく仲間の姿、学級の団結を示していかななくてはならない。反対に、どの学級にまとまりがあるのかを見ていく必要もある。自分たちのよさを伸ばし、認めてくれた学級との結びつきの強さは、体育祭だけにとどまらず、日常生活の向上から合唱祭などの大きな行事まであらゆることで切磋琢磨し、卒業式まで深く関わりがもてるような関係を築くものであると考える。

2. 組み合わせ方について

本校は、赤・青・黄・緑・白・紫の6団に分かれる。学年に7学級ある場合は、2学級が同じ団になる。1年生は最初に選ぶ立場であるが、希望学級が重なった場合は、先輩から選ばれる立場になるため、どの学年にも実績づくりは必要になる。

(1) 平成25年度～平成27年度の実践（1年生が7学級、2・3年生が6学級）

- ① 1年生が2年生を指名する。指名が重なった場合は、2年生が逆指名をする。(例：1のAと1のBが、2のCを選んだ場合、2のCが、2つのうちどちらかを選ぶ。)ただし、1年生は7クラスあるため、2年生の1クラスは2クラスを選ぶ。
- ② 1回目の指名で残った1年生と2年生で再度指名を行い、決定していく。
- ③ 決定した1年生と2年生が相談し、3年生を選ぶ。重なった場合は、3年生が選ぶ。
- ④ 1回目の指名で残った3年生と1・2年生で再度指名を行い、決定していく。

(2) 平成28年度の実践（1・2年生が7学級、3年生が6学級）

- ① 1年生が3年生を指名する。指名が重なった場合、3年生がどこを組みたいかを選ぶ。

②1回目の指名で残った1年生と3年生で再度指名を行い、決定していく。

※学級数の関係上、3年生のどこかの学級が1年生の2学級と団を組むことになる。

③決定した1年生と3年生を見て、2年生が選ぶ。重なった場合は、1年生と3年生が相談して選ぶ。ただし、2年生は7学級あるため、どこかの1年生と3年生のペアが2年生の2学級と団を組む。

※縦割り集団の学級数が5つになってしまうため、3年生が1年生の2学級と団を組んだところは、2年生の2学級を受け入れることはできない。

3. 実績づくりとアピールについて

(1) 実績づくり

本校では、日常的にできる活動の中から、学級が総力を挙げて取り組むものを「〇年〇組のこだわる活動」として位置づけ、誇りある学級文化を築いている。活動は学級ごとで違いがあり、掃除や環境美化、合唱や給食配膳、授業づくりなど様々である。ある学級は教室環境美化にこだわり、いつでもロッカーや机列が整頓されているようにした。(図1、図2)



(図1 ロッカーの様子)



(図2 机列の様子)

また、ある学級は給食配膳にこだわり、配膳時間を短くするためには、学級としてどんなことができるのかを考え、実践していった。

(図3は、4時間目が特別教室での授業のため、給食の準備をして移動している。図4は、自分たちの班に給食の何が届いていないかを伝えている。)



(図3 給食準備の様子)



(図4 配膳時間の様子)

このように、こだわる活動への取り組みの成果を実績づくりの1つとしている。

また、生徒会主催のメイン活動を実績づくりの1つとしている。メイン活動は、全校が同じ観点で同じことに取り組むため、他学級との比較がしやすく、自分たちの団結力を示すよい機会となっている。(図5)

学級	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
〇	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
×	○	○	×	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5/8	10	13	9	9	13	12	13	11	13	13	13	13	11	10	10	10	10	10	10	10
5/8	32	18	37	56	20	35	29	26	05	43	29	40	16	14	5	16	16	16	16	16

(図5 給食委員会による配膳タイム)

その他にも、学年レク大会での結果をアピールするなど、各学級で実績づくりに励んでいった。

(2) 全校掲示板の設置と学級前廊下の掲示

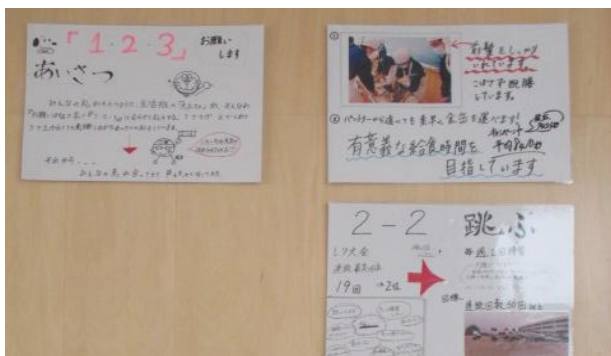
自分たちの実績をアピールすると同時に、他の学級がどのような実績を残しているのかを把握していく必要がある。そこで、生徒玄関に全校掲示板を設置し、各学級の実績（活動内容やその価値）を画用紙に記入し、掲示していく。実績が多い学級は、画用紙が重ねられて学級力をアピールしていくことができる。(図6)

また、学級の取り組みの結果を廊下に掲示し、実績をアピールする学級もあった。(図7)

ここで気をつけたいのがアピール内容である。例えばレク大会で大縄が3分間で200回を超えたとする。これはアピールするのに十分な実績だが、単に「大縄 3分間で200回」では、結果を競うだけになってしまう。200回もできたのはどうしてなのか。どんな思いがあって、どんな働きかけがあって、それに応えるどんな姿があったかが分かるようにしていく。



(図6 全校掲示板によるアピール)



(図7 廊下掲示によるアピール)

(3) 他学級との交流

団編成会議に向けて交流シートを提出し、他学級の様子をよりよく分かるようにした。シートは「相手の学級を見に行きたい」申込用紙(図8)と「自分の学級を見に来てほしい」申込用紙(図9)の2種類ある。この2つの使い分けが他学級に自分の学級をアピールするときに重要になってくる。見に行ってもいいだけでは、自分の学級の実績を他学級に知ってもらうことはできず、見に来てもらってもいいだけでは他学級の実績を知ることができない。計画的に自分たちの実績を知ってもらいながら、他学級の様子を知ることができるように、団編成会議までの見通しをもたせなくてはならない。(図10) 学級担任は「交流が始まったからやらなければ…」という考えではなく、「自分たちの学級は見に来てもらうだけの実績が築き上げられているのか」「自分の学級は他の学級に優越をつける資格があるのか」という考え方を基盤にして、自分の学級を創り上げていくことが大切になる。

交流申し込みシート(例)	
(1)年(1)組から(2)年(1)組へ	
6月 10日(水)	
いつ	給食配膳時間
誰が	給食班 6名 ← 人数も書くこと
何を	配膳の様子

(図8 交流申し込みシート)

交流お願いシート(例)	
(3)年(1)組から(2)年(1)組へ	
提出日 6月 12日(金)	
誇れる姿(いつのどんな姿か)	
<p>いつでもきれいな 教室環境</p>	

(図9 交流お願いシート)



(図10 合唱交流の様子)



(図11)

4. 団編成会議

(1) 平成25年度(団リーダーだけによる会議)

エントリー制1年目は、団リーダーだけが集まり、団編成会議を行った。事前にどの学級と一緒にになりたいのかを、その理由とともにエントリー用紙に記入し、持参した。(図11)

生徒会が1年1組から順番にどこを選んだのかを聞いていくところからスタートし、6団に編成した。初めての会議であったが、2年1組は1年生の3学級から選ばれて、1つだけ選ぶ(図12)ということや3年1組は、第3希望になるまで選んでもらえず、悔しい思いをした。(図13)

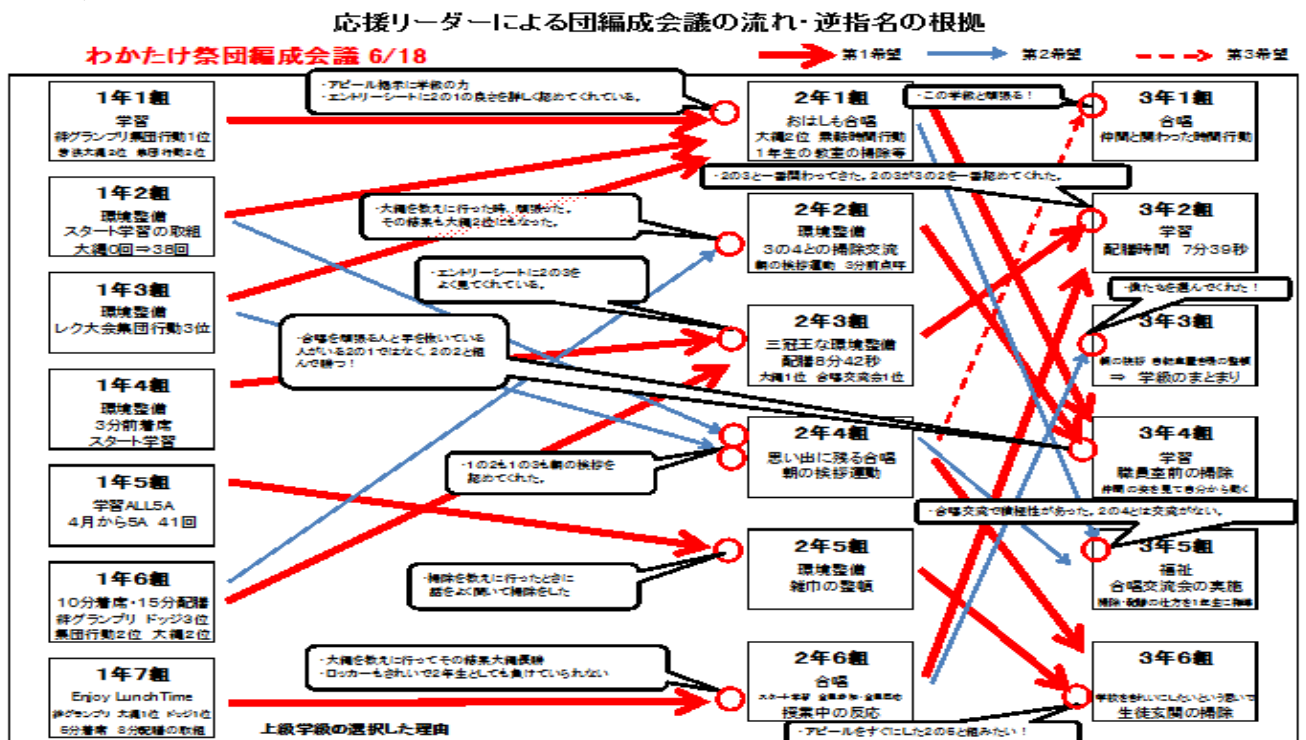
平成25年度の会議は、選んだ学級を緊張しながら聞くリーダーの姿、複数から選ばれたリーダーたちが嬉しそうに相談する姿、ずっと選ばれず寂しそうに時間を過ごすリーダーの姿など、様々な姿が見られた。



(図12)



(図13 複数の学級から指名されて相談する右側の生徒と最後まで呼ばれなかった左側の生徒)



(図14 団編成会議の指名の様子)

(2) 平成26年度からの様子

選ばれた嬉しさや選ばれなかった悔しさを団リーダーだけが直に味わうのではなく、学級全員が味わう価値があると考え、26年度からは全校生徒が団編成会議に参加することとなった。

複数の学級から指名された学級は、それまでの団結力やアピール力を活かして練習を積み重ね、体育祭本番で結果を出してきた学級もあれば、そうでない学級もあった。逆に、最後まで選ばれなかった学級が、その悔しさをバネに優勝争いをすることの方が多かった。団編成会議では、団リーダーが「自分たちと一緒に頑張ってよかったと思ってもらえるように精一杯がんばります。優勝しましょう。」と言い、その声に団の結束力が強まり、その後の意欲につながった。(図15～図16)



(図15 スクリーンを使って会を進める生徒会)



(図16 どの学級と組みたいかを示す)



(図17 指名した理由を話す様子)



(図18 団リーダーによる話し合い)



(図19 リベンジを誓う団リーダー)

5. 体育祭後のつながり

穂積中学校では、体育祭と同じように学級の団結力を示す場である合唱祭にも力を入れている。どの学級も金賞を取ろうと練習に励むのだが、生徒たちの心には、「エントリー制で一緒になった学級と一緒に金賞を取りたい」という意識が生まれている。それは、合唱祭に向けての取り組みで交流会を行い、1年生は2・3年生に合唱に対する心を学び、3年生は1・2年生に言葉と姿で示す交流ができているからである。

この他にも、日常生活の向上として掃除の交流(図20)を行ったり、未来を創る会(伝統を引き継ぐ会)では、団ごとに集まり、3年生が体育祭や合唱祭の活動における思いを語ったり、自分の進路などを語ったりした。(図21)また、団別合唱を披露した。(図22)

このように、エントリー制で一緒になった学級とは、3年生が卒業するまで様々な交流を行っていった。



(図20 掃除交流)



(図21 3年生の語り)



(図22 団別合唱)

6. 成果と課題

- 自分たちの学級を選んでもらうために真剣に話し合い、仲間と関わり合いながら取り組むことによって、形だけではない取り組みをすることができた。また、学級全員がめざす姿を共有し、できていないことに対して互いに厳しく働きかけることで、学級の凝集力が高まった。
- 3年生が学校のリーダーとしての自覚をもって行動することを通して、掃除の仕方（ワイパー拭き等）や合唱への取り組み方、全員で取り組むことの大切さなどを後輩に伝えることができた。中学校生活に不安をもっていた1年生も、3年生の姿を見て安心し、自分たちがやるべきことを知ることができた。

○2年生は谷間の学年ではなく、1年生を引っ張り、3年生を支えていこうという自覚が高まり、どの活動に対しても積極的に取り組む姿が増えた。また、これが3年生にとってよい刺激となり、お互いに切磋琢磨しながら学級の団結力を向上させていくことができた。

○最後まで選ばれなかった学級はモチベーションが一時下がってしまったが、自分たちの弱さや課題を共有して、「絶対見返してやる」という強い決意をもって、新たな活動に向かうことができた。抽選などの偶然で決まった団では、思いを語ったり成果と課題を話し合ったりすることは難しかったが、エントリー制を行うことで、選ぶ責任や選ばれた充実感、活動をやりきった達成感を味わうことができた。

○体育祭後も縦割りでの交流を多くもつことができ、下級生は穂積中学校の財産を3年生から学びやすくなった。

▲全校掲示板や交流を通して自分たちの学級をアピールしたが、全ての学級の様子を見に行くことも見てもらうこともできなかった学級があった。4月からエントリー制を意識させ、余裕をもって交流できるように計画的に仕組みでいくとよい。

▲どの学級もまとまりのある学級と一緒にになりたいのは当然である。しかし、3年生は、「まだまとまりきっていない学級を、自分たちが引っ張っていく」という意識がもてるような考えができるように指導し、さらに最上級生としての自覚を高めさせていきたい。